



JCLIFE

2019年
8月号



一般社団法人尾道青年会議所 <http://www.ojc.or.jp/> 〒722-0035 尾道市土堂2-10-3 尾道商工会議所ビル3F
TEL: 0848-20-1110 FAX: 0848-20-1112 E-mail: ojc@urban.ne.jp Facebook: <http://www.facebook.com/isojcnw>



尾道青年会議所活動は、参加してこそ意味がある！
そう強く感じさせられるゆかた会となりました。
(記事：内海洋平)



ゆかた会

7月16日(火)、池田知和委員長を中心とした「活気溢れる組織作り推進委員会」の設えによる、7月例会「ゆかた会」が開催されました。

今年度は、現役メンバーの結束をより深めるため、テーマ「鉄の結束」と題し、会を盛り上げていただきました。ソルトベイならぬ、ソングベイが登場して

の、ステーキ実演調理や、パスタ調理食

べ比べなど、メンバーが非常に楽しめる設えとなりました。

清掃ボランティア



7月28日(日)、住吉花火大会翌日の早朝ボランティア清掃に参加しました。

市内の中学生や、ボランティア参加者の皆さんと、市内ゴミ拾い、ゴミの仕分けを行いました。

お祭りを楽しむことは大切ですが、このまちに暮らしている方々が、気持ちよく翌日を迎えられる環境を作っていくことも、大切ですね。

清掃ボランティアをしながらも、綺麗なまちになることを願い、これからも一生懸命参加していきます。
(記事：村橋聡)



サマーコンファレンス

7月20日(土)、21日(日)、横浜で開催されました公益社団法人日本青年会議所 サマーコンファレンスに参加しました。

サマコン(サマーコンファレンス)とは、公益社団法人日本青年会議所の運動を広く発信するため、各界を代表する著名な有識者をお招きし、政治・経済・社会など様々なジャンルのファンクションを開催する場です。

地球の課題に向き合う2日間として、誰もが身近に始められるSDGsの実現(習得・行動)に向けて、本年度、日本JCIがパートナーシップを構築した企業や団体とともに政策の成果を発信します。

ここでの学びが、必ずや尾道のまちとひとのために繋がると確信し、今後の事業に活かしてまいります。
(記事：吉田高正)





公益社団法人日本青年会議所2019年度中国地区広島ブロック協議会SDGs推進委員会の委員長を拝命しております。高山敦好と申します。

今年度、JCI内においてSDGs推進元年という事から周知活動を展開させていただいております。

その中の一つの事業がSDGs教育の推進という事で、各地大学を回らせて頂きました。

2030年を一つの区切りとしたSDGsにおいて、現在の大学生の多くは社会で共に活躍



している事から尾道市立大学、広島大学、広島国際大学、広島市立大学と4校5か所でSDGs授業を開催させていただきました。

SDGsについては、各大学でも取り上げられ始めており、実施については「是非やっていただきたい。」と前向きに対応いただき、協力体制のもと行うことが出来ました。

また、小学校、中学校、高校、大学とSDGs教育が加速していることを感じさせていただきました。

今回の授業の中で、SDGsの世界観を伝えるべく、カードゲームを行う事で、現実世界でどのような活動、どのような行動を起こせばよいかの学びを提供させていただき、学生も

ゲームの中で積極的にゴールに向かつて楽しんで行動をして頂き、未来に向けて少しでも考えて頂ける機会ができたのではないかと思います。

もとより、現在までの「活動自体がSDGsに貢献している事、これからの」活動の意義を高めるためにもSDGsの指標を利用していく事はよりよい社会の実現に「歩ずつ近づいている」と分かりやすく感じさせていたかったです。

今後とも、SDGsの周知、JCIの周知活動を主に行つて参りますので、今年度のSDGs推進委員会の活動にご理解ご協力承りますようお願い申し上げます。
(記事：高山敦好)



天神祭

7月14日(日)御袖天満宮天神祭に参加してまいりました。

あいにくの雨でしたが、御袖天満宮の皆さまをはじめ、各お宮の方々、尾道高校ラグビー部の皆さまと力強く担ぐことが出来ました。

尾道のお祭りや神事に参加すると、まちの人の情熱や一体感を肌で感じます。

尾道はお祭りの多いまちです。だからこそ、市民の皆さまがいつでもどこでも参加できる素晴らしい環境が整っています。

尾道青年会議所も、負けないように盛り上げていきたいと強く感じました。

(記事：島田元太)



オリンピック

いよいよ1年後に迫ってきた東京オリンピック。

56年振り2回目の開催とあって、日本全国が盛り上がりまわりました。

そんなオリンピックですが、今回はオリンピックの歴史について少し触れてみたいと思います。

●オリンピックの誕生

1896年に始まった近代オリンピック。その前身となったのは古代ギリシャで行われていた「オリンピア祭典競技」、いわゆる古代オリンピックです。

古代オリンピックが始まったのは、考古学的な研究によって紀元前9世紀ごろとされています。現代のオリンピックは世界平和を究極の目的としたスポーツの祭典ですが、古代オリンピックはギリシャを中心としたヘレニズム文化圏の宗教行事でした。

全能の神ゼウスをはじめ多くの神々を崇めるための、神域における体育や芸術の競技祭だったのです。

●オリンピックが4年に1度開かれる理由

オリンピックが開催されるのは4年に1度。その理由にはいくつかの説があります。

最も有力なのは、古代ギリシャ人が太陰暦を使っていたからという説です。現代、一般的に使われている太陽暦の8年が、太陰暦の8年と3か月にほぼ等しいことから、8年という周期は古代ギリシャ人にとって重要な意味をもっていたのです。暦を司るのは神官であり8年ごとに祭典が開かれるようになり、後に半分の4年周期となりました。

●最初のオリンピック種目

古代オリンピックで最初に行われた競技は、1スタディオン(約191m)のコースを走る「競走」でした。オリンピアの聖地には、競走のための「スタディオン」が築かれていました。スタディオンは長さ約215m、幅約30mの広場を高い盛り土がスタンドのように囲んだ施設です。1スタディオンという距離は、このスタジアムの競技場が基準となった単位なのです。

紀元前776年の第1回大会から紀元前728年の第13回大会まで、古代オリンピックで開かれていたのは競走1種目だけでした。1スタディオンはゼウスの足裏600歩分に相当し、ヘラクレスがこの距離を実測したとも伝えられています。

要は、「かけっこ」が唯一の種目だったのですね。

●第1回 アテネ大会(ギリシャ) <1896年4月6日~15日>

近代オリンピック競技大会の第一歩となる記念すべき大会は、古代オリンピックの故郷・ギリシャのアテネで開催されました。

当時のギリシャは国内の経済問題などを抱えており、開催の決定は難航しましたが、国際オリンピック委員会(IOC)の会長に就任したギリシャ人のデメトリウス・ピケラスや事務局長に就任したクーベルタンらの努力が実を結び、計画通りにギリシャで開催できることになったのです。

開会式はアテネのパンアテナイ競技場に5万人の観衆を集めて行



われました。参加したのは欧米先進国の14ヶ国。選手は男子のみで241人。第1回の近代オリンピックは、古代オリンピックと同じように女子禁制の大会だったのです。

ちなみに、女性はオリンピックを観戦することも出来なかったようです。

実施された競技は、陸上、水泳、ボート、体操、レスリング、フェンシング、射撃、自転車、テニスの9競技(ただしボートは悪天候のため中止)。また、ウエイトリフティングが行われていますが、このときは体操の一種目として実施されました。

観衆に人気の陸上競技ではアメリカが圧倒的な強さを発揮し、全11種目のうち9種目において優勝をおさめました。100メートルでは優勝したアメリカのトーマス・バーグがただ1人クラウチング・スタートをして注目を集めました。

●前回の東京オリンピック

第18回 東京大会 <1964年10月10日~24日>

実施競技種目数/20競技163種目

参加国・選手数/93の国と地域・5,152人

柔道とバレーボールが正式種目に加わりました。

最終聖火ランナーをつとめたのは、広島に原爆が投下された昭和20年8月6日に広島市近郊で生まれた早稲田大学の坂井義則でした。

ウエイトリフティングの三宅義信が、10月12日、日本の金メダル第一号となります。

レスリングで日本勢が金メダル5個を獲得する大活躍。

遠藤幸雄を中心に、男子体操陣も金メダル5個を獲得。

マラソンの円谷幸吉が銅メダルを獲得。エチオピアのアベベがオリンピック2連覇を達成した。

4階級が行われた柔道で、日本は3階級を制覇。しかし無差別級ではオランダのアントン・ヘーシンクが優勝し、日本の4階級制覇を阻みます。

バレーボール女子の決勝戦、「東洋の魔女」と呼ばれた日本がソビエトをセットカウント3対0で下し金メダルを獲得。

日本の金メダル獲得数は16で、アメリカ、ソビエトについて3位となりました。

10月23日夜、女子バレーボール決勝戦のTV視聴率は85%にも達したといわれています。

まだまだここには書ききれない深い歴史があって現在まで続いているオリンピック。

私たちが日本でオリンピックを見ることが出来るのは、とても奇跡的なことだと感じました。

オリンピックに選手として参加することは出来ませんが、聖火ランナーとして参加できるかもしれません。

8月31日まで応募していますので、いこそはという方は、ぜひ応募してください。歴史の1ページに名を刻めるチャンスかもしれません。

(記事：岡田貴臣)



7月31日(水)、第7回会員拡大戦略委員会が尾道の地にて開催されました。広島ブロック各地より21名の方が参加され、9月に行われるブロック大会内での拡大賞事業や女性会員拡大事業について協議を行いました。

その後、屋形船に乗船し、尾道水道から尾道市街を眺めながら大いに懇親を深めました。

(記事：岡本正也)



1day 食育サマースクール in ハラダ～『食』に触れる夏の日～



「食べるもの」や「食べること」大切にできていますか？

毎日のことだからもっと興味をもってほしい。その興味の芽を育むことが、子どもの『生きる力』を育むのではないのでしょうか。

大自然の中で、土や緑、風や水に触れながら、初めての仲間と楽しく学ぶ機会をご提供します。夏休みの思い出に、子どもの成長に、責任を持って大切なお子様を一日お預かりします。

尾道青年会議所活動の一端を知っていただく機会になれば幸いです。

(記事：加藤 雄大)

- 開催日時：2019年8月24日(土)8:30～16:00(受付時間8:00～8:30)
- 場 所：原田芸術文化交流館 やまそら(旧原田中学校)
- 内 容：野菜収穫体験、ダンボールピザ窯作り、ピザ作り体験 他
- 参加対象：小学校1～6年生のお子様
- 定 員：50名

(※JCライブ発行時には、すでに申し込みを締め切っております。ご了承ください。)

主催：一般社団法人尾道青年会議所

後援：尾道市・尾道スローフードまちづくり推進協議会

協力：NPO法人原田芸術文化交流館



TV番組「クレイジージャーニー」出演で話題！ 丸山ゴンザレス講演会

9月18日(水)19:00～ しまなみ交流館大ホールにて、丸山ゴンザレスさんを講師に迎え、「Change the Values～世界を知ること広がる無限の可能性～」をテーマに、ご講演いただきます。

丸山ゴンザレスさんは、1977年生まれの宮城県出身。現在は、ジャーナリスト、編集者、國學院大學学術資料センター共同研究員。

國學院大學大学院修了後、出版社勤務を経て独立。TV番組「クレイジージャーニー」(TBS系列)では、世界中のスラム街や犯罪多発地帯を渡り歩くジャーナリストとして出演。

世界を旅する中で目の当たりにした様々な価値観(宗教、貧富、環境、言語、紛争、男女)や、それぞれの国で違う価値観を受け入れ対応する柔軟性、海外でのコミュニケーションスキルについてご講演いただきます。

以下の動画をご高覧いただき、ご興味を持っていただければ幸甚に存じます。

よろしくお願いたします。

(記事：岡田 貴臣)



お申し込みはこちら



丸山ゴンザレス氏講演会の
プロモーションVTRはこちら



8月に入り、猛暑・酷暑が続いております。皆さま、お体にはくれぐれもご自愛ください。いよいよ東京オリンピックまであと1年となりました。チケット申し込みで一喜一憂した方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。かくゆう私も、申し込みましたが見事全敗…。家のソファという最高のSS席を無料で手に入れたと言いついて聞かせておきます。さて、先月のJCライブ7月号ですが、編集後記にひっそりの縦読みを入れていたのをお気づきになりましたでしょうか？

ぜひ、もう一度振り返っていただくと総務冥利に尽きます。

(記事：岡本 正也)

HP



facebook

